

～ 令和元年度 ～



岩手県被災自治体視察



7月18日(木)～19日(金) ①陸前高田市・大船渡市コース ②大槌町・釜石市コース
7月25日(木)～26日(金) ③山田町・宮古市コース

<内容>

◇被災地現地視察 ◇派遣職員との面談 ◇被災地自治体職員との交流会

<参加対象>

- ◇各都道府県（市区町村行政担当及び人事担当等） ◇各政令指定都市（人事担当等）
- ◇全国の市区町村等（人事担当等）
- ◇全国知事会、全国市長会、全国町村会、各都道府県の市長会・町村会及び特別区長会
- ◇過去に岩手県の被災市町村で派遣職員として勤務経験のある職員



<参加者の費用負担>

- ◇岩手県までの移動交通費
 - ※ 視察中の移動交通費は岩手県で負担
- ◇交流会の飲料費
 - ※ 食費(1日目夕食、2日目朝食)は岩手県で負担
- ◇前泊、後泊する場合の宿泊費

①陸前高田市・大船渡市コース

盛岡駅集合
↓ (バス)
陸前高田市内視察
↓ (バス)
大船渡市内宿泊
↓ (バス)
大船渡市内視察
↓ (バス)
三陸鉄道
(盛→釜石間乗車)
↓ (バス)
盛岡駅解散

②大槌町・釜石市コース

盛岡駅集合
↓ (バス)
大槌町内視察
↓ (バス)
釜石市内宿泊
↓ (バス)
釜石市内視察
↓ (バス)
三陸鉄道
(釜石→盛岡乗車)
↓ (バス)
盛岡駅解散

③山田町・宮古市コース

盛岡駅集合
↓ (バス)
山田町内視察
↓ (バス)
宮古市内宿泊
↓ (バス)
宮古市内視察
↓ (バス)
三陸鉄道
(宮古→田老間乗車)
↓ (バス)
盛岡駅解散

<①陸前高田市・大船渡市コース>

実施内容



1. 陸前高田市内
復興まちづくり情報館
にて、復興の進捗状況
を聞きました。

<1日目>

～参加者の声～

復興に時間がかかった
事で、内陸に引っ越し
た方が帰って来ない可
能性が高く、人口流入
に課題がある等実際に
地元の職員の方とお話
しなければ知らなかつ
た話もあり、大変有意義
だった。



2. 大船渡市内
小河原地区産業用地で
被災跡地利用の説明を
聞きました。

<2日目>

～参加者の声～

被災の状況、復興の
現状を肌で感じること
ができ、また、派遣職員
との情報交換の時間も
設定いただき、大変有
意義であった。



3. 大船渡市内
防災観光交流センター
にて、大船渡地区の復
興状況説明を聞かまし
た。

<2日目>

～参加者の声～

(交流会に参加して)
・質問し辛い事も聞く
ことができた。
・交流が図られ色々な
情報を得る事ができた。
・陸前高田市、大船渡
市の方と話し、視察時
の説明より深い部分に
ついて聞くことができた。
事務局の方とも話せて、
楽しく学ぶことができた。

<②大槌町・釜石市コース> 実施内容



1. 大槌町内
2019年2月に再建され「ひょうたん島」をイメージした大槌駅を視察しました。

<1日目>

～参加者の声～

(交流会に参加して)
・本音の話や、震災以外の話も伺うことが出来た。
・日頃関わることの少ない他自治体等の方と話をすることができ、よかった。



2. 釜石市内
ラグビーワールドカップが開催される釜石鶴住居復興スタジアムを視察しました。

<2日目>

～参加者の声～

実際に見ると資料や映像で見るとでは、違うので良かった。
地区ごとに復興のやり方を変えていることを知り、勉強になった。



3. 釜石市内
いのちをつなぐ未来館にて震災時の避難状況の説明を聞きました。

<2日目>

～参加者の声～

当事者から津波に関する話を伺ったのは初めてで、貴重なものだった。
なかなか非当事者間の議論では見えてこない内容が多かった。
複数年が経過しても尚、課題が山積みしていることを実感した。津波教育の中身について更に関心が高まった。

<③山田町・宮古市コース> 実施内容



1. 山田町内
長林大浦線からの山田湾を囲むように建設された防潮堤を視察しました。

<1日目>

～参加者の声～

(派遣職員と面談して)
・派遣者の上司の方と面談があり、職場への挨拶もでき、元気に働いている様子が確認できてよかった。
・今まで面談経験がなかったので、直接会うことが出来て色々な話をする事ができた。



2. 宮古市内
市民交流センターにて震災時の説明を聞きました。

<2日目>

～参加者の声～

(交流会に参加して)
・災害復旧にかかる費用や苦勞など、当時の担当者と話すごうできた。他県の方と情報交換の場として適切だった。
・各自治体におけるBCPの課題、職員の受入れ体制や派遣することに対する課題を聞くことができた



3. 宮古市内
田老地区の防潮堤を視察しました。

<2日目>

～参加者の声～

・原発事故がクローズアップされがちだが、岩手県等の復興状況にもっと国民・マスコミの関心が集まってしかるべきと痛感した。
・今回の視察内容を自分の自治体で共有し、被災地への職員派遣を進める力としたい。